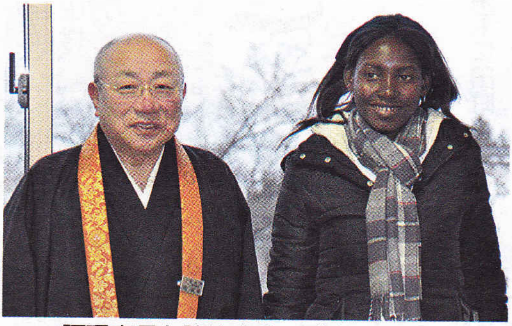
# ハイチ大地震救援に感謝

## 被災少女が宗務庁訪問

## 「ハイチと日本の架け橋になりたい」

昨年一月に起こったハイチ大地震で被災して右足を失った女子学生ガエル・エズナールさん（18）が、現地で救援活動する国際医療救援団体AMDA（本部・岡山市）の招きで来日、一月十七日、天台宗務庁を訪問した。



阿理事長と談笑するエズナールさん

天台宗の一隅を照らす運動総本部では、AMDAに対し持続的に支援を行っており、一年前に発生したハイチ大地震の救援活動においてもバックアップを続けてきた。

AMDAは地震発生直後から救援活動を展開してきたが、その活動の一環として、四千人に上るといわれる四肢を切断したハイチ大地震の被災者に対し、義肢支援活動を行っている。エズナールさんもその支援を受けた一人。

今回の来日では、今年で十六年を迎える阪神・淡路大震災で同じように障害を負った被災者と交流、大震災発生当日の十七日も神戸市で犠牲者追悼の集いに出席し、その足で天台宗務庁を訪問した。

エズナールさんは、AMDAを通じた支援によって義足を得ることができたお礼を、阿純孝同運動理事長（天台宗宗務総長）に伝えた。阿理事長のねぎらいの言葉に対し、エズナールさんは「ご支援有り難うございます。できたら日本に留学し、外交の分野で活動し、母国と日本の架け橋になりたいと思います」と語っていた。